3/18 朝日

原発資料 誤り続発

敦賀2号機「審査できず」

日本原子力発電敦賀原発2号機（福井県）に対する原子力規制委員会の審査で、資料の誤りが相次いでいる。資料の書き換え問題で約2年間中断していた審査が昨年12月に再開したが、新たに157件の誤りが判明。17日の会合でもさらに8件が報告された。4月にも審査を続けるかどうかの議論をするという。

原電によると、誤りがあったのは断層の資料で、最新の活動面を観察すべきところ、近くの割れ目を観察して資料を作ったという。

敦賀原発では、ボーリング調査による地層の観察記録の資料を無断で書き換えていた問題が2020年に規制委の指摘で発覚。審査が中断し、昨年12月に再開したところだった。

この日の会合で、審査を担当する石渡明委員は、誤りの続発で「実質的な審査に入れない状況が続いている」として、4月にも審査を継続するかどうかを規制委で議論する方針を示した。

また、九州電力玄海原発（佐賀県）の耐震設計の前提となる基準地震動を見直す審査資料で、グラフのデータの取り違えが2件あったと報告された。見直しに伴い、期限の24年4月までに許可を受けないと運転できなくなるが、対応が遅れている。今回の誤りの発覚でさらに遅れが生じる可能性がある。（山野拓郎）